

労働図書館新着情報

今月の10冊

<p>① 本田由紀著『軋む社会』双風社(255頁,B6判) 将来の展望が困難な社会の中で、多くの若者が絶望している。本書は、家庭-学校-職場の3つの社会領域の歪みを詳述し、若者を救い出すべく苦闘している著者の2年間の闘いの記録といえる。新自由主義経済下の格差の拡大は、社会に多様な軋みを生み出しているが、きめの細かな処方箋のみが解決策となるのだろうか。</p>	<p>⑥ 土田道夫著『労働契約法』有斐閣(xv+805頁,A5判) 索引含め800頁を超え、労働法単著の久々の大作である。当然、筆者の紹介能力を超える。小さく産んで大きく育てざるをえない労働契約法の解説のみでなく、労働契約という視点から労働法を考察、労働契約の成立から終了までの全体像を理論的・体系的に描き出すという意図に基づいている。大著になった由縁である。</p>
<p>② 猿田正機編著『トヨタ企業集団と格差社会』ミネルヴァ書房(xiv+402頁,A5判) トヨタの企業集団としての階層的労働市場、賃金・労働条件等を分析し、企業城下町での格差の実態を解明しようとする本書は、大幅な減益とはいえ、なお数千億の営業利益を生み出す世界のトヨタの負の側面をえぐり出しているのか。事実は多方面からの調査によって解明される。研究者間の論争に期待したい。</p>	<p>⑦ 早川智津子著『外国人労働の法政策』信山社出版(ix+351頁,A5判) 本書は、外国人労働者の受け入れにおける「選択」の理念と、受け入れた外国人の「統合」の理念をいかに調和させるかという観点から、アメリカ法と比較し、入管法との交錯領域をも検討するとともに、外国人労働政策として、日本型受け入れ制度や国籍差別禁止の強化、行政による統合支援等の政策提言も行っている。</p>
<p>③ 若林直樹他編『企業変革の人材マネジメント』ナカニシヤ出版(iv+302頁,A5判) 人材マネジメント研究が花盛りだが、本書は人材マネジメント、成果主義、コミットメント・マネジメント、キャリア・マネジメントの4部で構成されている。人材マネジメントが戦略性を帯び、事業戦略によって規定され、経営活動と一体になったとき、人事管理は、本書の主張のように企業変革の契機となれるであろうか。</p>	<p>⑧ 大橋昭一他著『ホーンソン実験の研究』同文館出版(11+231頁,A5判) 歴史の彼方にフェド・アウトしかけていた、ホーンソン工場での人間関係についての実験が2人の研究者によってよみがえった。おぼろげになっていた実験内容の全容とホーンソン実験研究の進展を紹介しているが、当該実験が歴史の一コマとして記憶の対象となるのか、何らかの進展がみられるのか、興味深いものがある。</p>
<p>④ マーサージャパン他著『個を活かすダイバーシティ戦略』ファーストプレス(281頁,B6判) ワークライフバランスとともに、ダイバーシティが脚光を浴びている。著者は、8社のケースをとりあげ、推進要因、施策内容等を紹介しているが、もはやダイバーシティが流行として消費されかけている、との危機感も露わにしている。オピニオンの多様性に活路を見出しているが、個々の日本企業の対応が注目される。</p>	<p>⑨ 二木立代表編『福祉社会開発学』ミネルヴァ書房(xiv+198頁,A5判) 本書は、貧困と格差拡大、社会的排除などの問題解決のために、福祉と社会開発を融合した新たな理論の構築に向けた、日本福祉大学21世紀COEプログラムの5年間の研究の最終成果である。福祉社会開発学という新たな学問の理論・政策・実践を体系的に記述した世界初の教科書であることを編者は強調している。</p>
<p>⑤ 所由紀著『偶キャリ。』経済界(231頁,新書判) Planned Happenstance理論に基づく本書は「キャリアはたまたまつくられる」ことを示す10人の経歴を紹介、我がキャリアからも腑に落ちるが、マーフィーの法則も連想せざるおかない。だが、折角のチャンスをものするには好奇心、粘り強さ等5つのスキルが必要とされると、理論への信頼性・納得感も高まっていく。</p>	<p>⑩ 京極高宣著『生活保護改革と地方分権化』ミネルヴァ書房(xi+206+9頁,A5判) ワーキング・プアが問題化したことで、最低限の生活保障の最後の砦である生活保護に注目が集まっているが、制度の大枠は制定当時と変わっていない。多くの省庁が関与し、学際的研究の対象でもある生活保護制度について政策科学者たる著者は、21世紀に相応しい制度改革と福祉事務所のあり方について提言している。</p>

主な受け入れ図書

(2008年10月に労働図書館が収蔵した主な図書)

⑪ 小川捷之著『会社に行きたくない』早川書房(222頁,文庫判)	③ 降旗学著『世界は仕事で満ちている』日経BP社(369頁,B6判)
⑫ 城塚健之著『官製ワーキングプアを生んだ公共サービス「改革」』自治体研究社(214頁,A5判)	③ 水谷英夫著『職場のいじめ・パワハラと法対策』民事法研究会(xv+339頁,A5判)
⑬ 大分大学経済学部編『グローバル化する経済と社会』ミネルヴァ書房(vii+219頁,A5判)	③ 二村一夫著『労働は神聖なり、結合は勢力なり』岩波書店(xv+298+7頁,B6判)
⑭ スーザン・ブロック他著『フラット化する世界のマネジメント』東洋経済新報社(286頁,B6判)	③ 小形雅之著『上を向いて歩こう』本の泉社(238頁,B6判)
⑮ 葉山晃著『フランスの経済エリート』日本評論社(viii+232頁,A5判)	③ 東京弁護士会労働法制特別委員会編『ケーススタディ 労働審判』法律情報出版(249頁,B5判)
⑯ エヌ・エヌ・エー編『海外赴任』エヌ・エヌ・エー(311頁,A5判)	③ ニキ・ヴァン・デ・ガーク著『ダイヤモンドはほんとうに美しいのか?』合同出版(119頁,B6判)
⑰ 労務理論学会編『企業の社会的責任と労働』労務理論学会(v+255頁,A5判)	③ 松繁寿和著『労働経済』放送大学教育振興会(261頁,A5判)
⑱ 太田肇著『日本の人事管理論』中央経済社(5+205頁,A5判)	③ 伊藤公雄著『ジェンダーの社会学』放送大学教育振興会(213頁,A5判)
⑲ 川邊信雄他編『日系流通企業の中国展開』早稲田大学産業経営研究所(210頁,B5判)	③ 田中滋子編『地域・家族・福祉の現在』まほろば書房(197頁,A5判)
⑳ 吉越浩一郎著『「残業ゼロ」の人生力』日本能率協会マネジメントセンター(193頁,B6判)	④ 上野千鶴子他編『ケアされること』岩波書店(ix+253+3頁,A5判)
㉑ 八木章著『キャリア・マネジメント』中央経済社(xi+204頁,A5判)	④ 副田義也著『福祉社会学宣言』岩波書店(xii+326頁,B6判)
㉒ 三浦展著『格差社会のサバイバル術』学習研究社(243頁,新書判)	④ 都筑学編『働くことの心理学』ミネルヴァ書房(vii+197頁,A5判)
㉓ 上村敏之他編『検証 格差拡大社会』日本経済新聞出版社(xiii+237頁,B6判)	④ 日本社会臨床学会編『「教育改革」と労働のいま』現代書館(325頁,B6判)
㉔ 玉井金五他編『少子高齢化と社会政策』法律文化社(ix+274頁,A5判)	④ 青島矢一編『企業の錯誤/教育の迷走』東信堂(viii+196頁,B6判)
㉕ 大内伸哉著『どこまでやったらクビになるか』新潮社(207頁,新書判)	④ 仙崎武他編著『キャリア教育の系譜と展開』雇用問題研究会(331頁,A4判)
㉖ 日本労働法学会編『労働法におけるセーフティネットの再構築』日本労働法学会(ii+202頁,A5判)	④ 日高教・高校教育研究委員会他編『学ぶはたらくつながら』かもがわ出版(190頁,A5判)
㉗ 石田真他編『労働と環境』日本評論社(xi+271頁,A5判)	④ 医療経営情報研究所編『病院・老健の雇用事情・勤務事情事例集』経営書院(283頁,B5判)
㉘ 藤沼謙一著『労働保護法論』信山社出版(x+303+iii頁,A5判)	④ 須田民男著『ストレスによる健康障害とその予防』かもがわ出版(143頁,A5判)
㉙ 柏木理佳著『自分にあった仕事が見つかる本』PHP研究所(187頁,文庫判)	④ 平野雅之著『ゼロ災運動が会社を変えた!』中央労働災害防止協会(244頁,新書判)
㉚ 岡田亜弥他著『産業スキルディベロップメント』日本評論社(xiii+241頁,A5判)	④ 佐藤創編『アジア諸国の鉄鋼業』日本貿易振興機構アジア経済研究所(xi+351頁,A5判)

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書103,000冊、洋書26,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間：9:30～17:00

休館日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他

電話番号：03(5991)5032 / FAX：03(5991)5659

利用資格：どなたでも自由に利用できます

貸出：和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンスサービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています